

“しごと観育成”研究会の活動と調査に関する新聞記事

「教育家庭新聞」 2008年8月23日

親子

アンケート調査

働くのは当然が大半

高校生のしごと観

「13歳のハローワーク 仕事をイメージしている公式サイト」を主体とする結果となった。その一方、しごと観育成”研で「就職した後の仕事の究会は、東京、千葉、愛知、大阪の高等学校16校（公立8校／私立8校）を対象に、「高校生のしごと観」と「進路選択」に関する調査を実施。有効回答数は5956件。

それによると、「将来つきたい仕事について考えている」高校生は75・2%と非常に高く、「将来つきたい仕事を決めていない」という人も59・3%で、半数以上が将来の

と回答した人の合計は6割にのぼり、「卒業後、ニートやフリーターになってもよい」という回答は4・4%と非常に少なくなっている。

そして、「仕事は楽しいものだ」「他の人より

選択制望む親3割

中学校選択に関する調査

Benesse教育研究開発センターは、昨年12月、全国の公立小学校に通う6年生15001名を対象に、中学校選択に関する意識と行動について調査を実施した。住んでいる地域で学校選択制が「導入されている」と回答した保護者は全体の24・4%で、「導入されていない」は43・2%、「わからない」は29%となっている。「導入されている」と回答した保護者に、子どもをどの公立中学校に進学させるか考えたかを聞いたところ「考えた」と答えたのは約半数であった。また、「導入されていない」「分らない」と回答した人に、学校選択制の導入を希望するかどうか聞いたところ、希望するのは全体の約30%となり、約半数は希望していないということが分かった。

子どもに中学受験をさせる予定の保護者は全体で13・2%となっているが、首都圏や関西圏では約2割なのに対し、その他の地域では8・7%で1割にも満たないなど地域差が見られる。一方、子どもに中学受験をしない理由を聞いたところ、上位3つは「近くの公立中学校に行きたいから」「高校を受験すればよいから」「受験をするのは大変だから」という結果になった。

努力して、仕事ができる人になりたい」という設問において「そう思う」と回答した仕事に対して肯定的な考えを持つている高校生は、進路の希望先として「専門学校」をあげた人が、「大学」や「短大」をあげた人に比べると、わずかながら高くなっている。